

巻頭言

鳳が翼を広げ大空を飛ぶ日

勝田啓示

4

特集 1

千葉商科大学創立90周年に向けた記念事業の今後の展開

日本初自然エネルギー100%大学への取組みについて

— 創立90年の歴史とともに未来に向けた取組みとして —

原科幸彦

5

特集 2

千葉商科大学創立90周年に向けて(第5回)

創立90周年に寄せて

加瀬正裕

15

特集 3

「健康」年代別ダイエットについて

九州の南から発信

下嶽進一郎

21

林田洋二

28

活躍する卒業生

本部からの報告

広報・IT委員会

32

第9回ホームカミングデー

第48期定期総会

32

支部長会からの報告 第16回支部長会定期総会開催

「懐かしき思い出工房」開催報告／歴史を紐解く新しいコンテンツ／

第8回同窓会会員交流会

『鳳雛会』設立について

体育会OB会活動報告

瑞穂会・中小企業診断士研究会

支部からの報告

同期会からの報告

OB会からの報告

同窓生寄稿

部活動・課外活動と卒業生はどう関わっていく？

卒業生のお宿・お店紹介「ダンススクール」「もんじゃわらしべ」「焼肉 炎焚」

商大での思い出

商大に温泉!?

小島淳

60

杉田文

61

半澤広幸

57

二木利征

59

同窓生寄稿

57

同期会からの報告

55

支部からの報告

50

体育会OB会活動報告

42

瑞穂会・中小企業診断士研究会

39

鳳雛会設立について

38

懐かしき思い出工房

37

開催報告

36

歴史を紐解く新しいコンテンツ

35

第8回同窓会会員交流会

33

第9回ホームカミングデー

32

第48期定期総会

32

本部からの報告

32

活躍する卒業生

28

「健康」年代別ダイエットについて

21

九州の南から発信

15

千葉商科大学創立90周年に向けて(第5回)

15

創立90周年に寄せて

5

千葉商科大学創立90周年に向けた記念事業の今後の展開

5

日本初自然エネルギー100%大学への取組みについて

5

鳳が翼を広げ大空を飛ぶ日

4

CUC経営者会議	CUC経営者会議ニュース	63
教育後援会活動	CUC保護者会、教育後援会総会報告 平成29年度(秋学期)チャレンジ応援奨学金採択者決定 保護者寄稿 親としてのライフステージ 教育後援会卒業を迎えて 事業報告	伊藤 敦子 作吉 正代
CUCの教育	あらゆるビジネスシーンに役立つ簿記・会計を究める —— 会計教育研究所瑞穂会	71
ゼミ紹介	ゼミ活動を通じて、学生が成長しています！ ■ ニュース・イベント 瑞穂会が全国大学対抗簿記大会史上初の団体戦5連覇！トップ4を独占！ 表彰総数は個人・団体合わせて195件！「2017年度学生表彰」 「自然エネルギー100%大学」への取り組みが COOL CHOICE LEADERS AWARD優秀賞を受賞 教育機関と医療機関で安心・安全なまちづくりへ 「国府台コンソーシアム」が発足	勅使河原隆行
CUCレポート	■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧 ■ キャリア支援センターニュース MAKE! CHANCE GO! LINK 自らチャンスを創り出し、輝く未来に繋げよう！ ■ 地域連携推進センターニュース 生涯学習、社会人教育支援事業について 地域貢献活動 ■ 文化団体・体育会所属各部の活動状況	川 瀬 功
著 書 紹 介	『消費者購買意思決定とクオモミ行動…説得メカニズムからの解明』 著者：安藤和代	安藤 和代
▼千葉商科大学創立90周年記念事業 寄付者芳名録	94	▼同窓会支部事務局 一覧 98
▼編集後記	100	

鳳が翼を広げ大空を飛ぶ日

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭和34商)



心新たに平成30年を迎えましたが、瞬く間に早や2月、正に「光陰矢の如し」であります。学生の皆様は年度末で慌ただし日々をお過ごしのことと思います。

同窓会は今期も多くの人に参加していただき維持会員(維持会費納入者)の増加を図り、基盤の強化を進めてまいります。昨年、宮崎県支部、さくら会(女子会)、娯八会(昭和58年卒同期会)の設立、そして第48期定期総会の日(平成年代卒業生の「鳳雛会」が発足したことは大いなる喜びでありました。

特に「鳳雛会」の発足は同窓会に新しい風を吹き込むものと思っております。近年、同窓会に若い世代の参加が少ないといわれてから久しく、全国支部を含め共通の悩みでありました。定期総会の前日、鳳雛会会長(星野喜宏氏・平11卒)から「メンバーは現在60名おります。2000名を目標にしています」という言葉を聞きどんなに感激したことか。

若い世代の方々のアイデア・発想は昭和世代の我々には思いも及ばぬことが多々あり教えられます。また学生に最も近い世代であり学生との交流もより深まるものと思います。同窓会には大きな活力となることは必ずであります。

「鳳雛時来て 翼成るや」ご存知、校歌4番の最初の一節であります。鳳が大きな翼を広げ大空を飛ぶ雄大な姿が詠われています。「鳳雛会」の名はこの一節から名付けられたそうでまさしくこれからの同窓会にふさわしいネーミングであります。

母校が創立90周年を迎えるめでたい年に「鳳が翼を広げ大空を飛ぶ」、何と素晴らしいことではありませんか。同窓会全員でお互いに協力し充実した活力ある同窓会を進めてまいりたいと思います。皆様のご支援を切にお願い申し上げる次第であります。

九州の南から発信

林田 洋二

株式会社宮崎太陽銀行 代表取締役頭取
昭和48年 商経学部商学科卒業

昨年2月、本学同窓会宮崎県支部が設立し、同年11月には第2回支部総会が開催されました。本県在住の同窓生と大変有意義な時間を過ごすことができ、宮崎県支部の設立にご尽力いただいた皆さまに、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

さて、今からさかのぼること44年前、昭和48年3月に商経学部商学科を卒業した私は、同年4月、出身地である宮崎県に本店を構える宮崎相互銀行に入行しました。



今回の寄稿にあたり、私の学生時代のエピソードを綴ることも考えましたが、今回は、在学中の皆さんが将来を考える上での一助になればと思い、当地宮崎県の紹介にも触れながら、私が身を置く地域金融機関の取組みについて述べることにします。

それではまず、宮崎県について簡単に紹介します。当行が本店を置く宮崎県は、「日本のひなた 宮崎」をキャッチフレーズとしており、「平均気温（3位）」、「日照時間



青島



社屋

(3位)、「快晴日数(2位)」(1981～2010年平均)と、年間を通じて国内トップクラスの温暖な気候に恵まれ、こうした温暖な気候を活かした「スポーツランドみやざき」として、国内外を問わず、多くのスポーツキャンプ・合宿等を受け入れています。

また、「ひなた」を漢字で記した「日向」の国として神話の時代から称されています。古事記や日本書紀に描かれた日本発祥にまつわる日向神話の舞台であり、こうした神話とかかわりのある本県には多くの伝説や神楽等の伝統文化、史跡が残されています。平成24年には「古事記編さん1300年」を迎えました

が、再来年の平成32年には「日本書紀編さん1300年」という歴史の大きな節目に当たり、県内では数多くの記念行事やイベントが催されることとなるでしょう。

このほか、温暖な気候と肥沃な大地が生み出す、宮崎牛、完熟マンゴー、完熟キンカンといった「みやざきブランド」に認定された農畜産物は全国でも高い評価を得ています。特に、宮崎牛は、昨年9月に宮城県で開催された第11回全国和牛共進

会「肉牛の部」で日本一を獲得し、3大会連続の日本一となりました。「肉質日本一」の座を得た宮崎牛ブランドの確立と輸出拡大、今後の本県経済活性化への貢献が大きき期待されています。

このように、魅力あふれる本県ですが、他の地方都市と同様、少子高齢化や人口減少に歯止めがかからず、今後、さらなる地域経済の縮小が懸念されています。また、地域金融機関を取り巻く環境も、金融行政の大胆な方針転換、フィンテックやAI等の新たなIT技術の躍進、異業種の参入等、様々な分野で、まさに分刻みで劇的な変化が起こっています。こうした環境下、地域金融機関には、これまで以上に地元の産業を盛り立て、地域経済の活性化に貢献していくことが強く求められており、今回はそうした取組みを二つ紹介します。

まず、私にとって思い出深い取組みの一つが、平成8年に携わったグループ会社「宮崎太陽キャピタル」の設立をきっかけとする「地元企業への技術支援、ベンチャー支援」の取組みです。本学においても、地元市川市と地域活性化・人材育成を目的とした包括連携協定を結び、地域に根差した教育・研究・社会貢献に取り組んで

おりますが、当行も地元大学と連携協定を結び、地元企業への生産技術等に関する出前講座や共同研究、ベンチャー企業の技術判定や投資案件の引き受け等に、産学連携により20年来取り組んでまいりました。私自身、この会社の立ち上げに関わっており、大変な思いもしましたが、当時、苦勞をしたからこそ、今となってはとても良い思い出となっています。

こうした取組みの結果、銀行本体の技術関連の相談業務・スキルが拡充したほか、一昨年にはお取引先1社が、県内企業として5社目となる、実に12年振りの株式上場を果たし、長年、辛抱強く業績発展のために力を尽くしてきた成果を、お取引先とともに分かち合うことができました。この成果は、当行の大きな誇り・強みとなるだけではなく、地域の発展が地元大学の発展、そして、地元大学と地元企業との連携に大きく関わっていることも示しています。在学生の皆さんにおかれましては、地域社会の一員であるという認識と誇りをしっかりと持って、日々の勉学に邁進していただければ幸いです。

さて、地域経済の活性化に向けた取組みをもう一つ紹介します。冒頭、人口減少が本県の課題だと申し上げま



企業訪問バスツアー

したが、その要因の一つが若年層の県外流出です。本県高校生の内県就職率は、平成27～28年にかけて2年連続で全国最下位となりました。一方、取引先への聴き取り調査では、多くの企業が「優秀な人材を確保したい」という経営課題を抱えています。こうした県および取引先の

課題解決の一助になればと、当行は昨年3月、県内の民間企業として初めて、高校生を対象とした「企業訪問バスツアー」を開催しました。バスツアーには、高校生や保護者、県職員などが参加し、高校生からは、「県外就職

県内にも素晴らしい企業があることを知った」「もっと広い視野で就職先を探していきたい」といった意見もいただきました。このバスツアーは、「高校生が自分の目で直接企業を見て、知ってもらうことで地元就職する若者が増えると同時に、地元企業のアピールや人材確保につなげていきたい」、そういった思いから企画したものでしたが、幸いにも、バスツアーに参加した高校生の中から、訪問先5社のうち2社に1名ずつ内定が決まり、企画に携わった行員たちも大きな喜びを感じています。これからも、地元金融機関としてできることを実行し、少しでも地域の役に立っていききたいという思いを新たにしました。

以上、地域金融機関の取組みの一部を紹介させていただきました。これから先、地域金融機関が地域の成長にどう貢献していくのか。地元の大学との連携を更に深めながら、地域経済の発展に向けた取組みを進めていきたいと考えております。最後になりますが、創立90周年、そして、次の100周年に向けた本学の益々の発展を祈念して、私の寄稿とさせていただきます。